岐阜大学国際交流
NEWS Letter 54
For International Exchange
Gifu University
March 2023

吉田和弘学長が日印大学等フォーラムで大学間交流に関して講演

1月23日

令和5年1月23日、東京で開催された日印大学等フォーラムにて、吉田 和弘 学長が日印間の大学間交流に関する講演を行いました。本フォーラムは科学技術振興機構（JST）が主催したもので、第1回にあたる今回は「日印間の大学・研究機関間交流の強化と今後の課題解決：若手イノベーション人材の育成と交流」をテーマに、インドの10大学、日本の22大学および関係機関の学長や代表が対面形式でフォーラムを開催し、今後の両国の連携強化に向けた議論を行いました。

第1部では日印大学学長による各校の日印交流の実績や成果、今後の課題に関する講演が行われました。第2部では円卓会議が行われ、若手人材の育成に向けた課題や大学間連携について意見が交わされました。第1部と第2部において、吉田学長は、日印間でジョイント・ディグリープログラム（JDP※）を開設している唯一の大学連携である本学とインド工科大学グワハティ校（IITG）との交流を中心に、JDPの実際ならびに両大学で共創する地域創生高度人材育成（現在進行中の「大学の世界展開力強化事業：インド太平洋地域等との大学間交流形成支援」）について、話題提供を行いました。

本学は今後もIITGとの連係を強化していくとともに、今後の両国の連携強化の一端を担えるよう努力していきます。

※ジョイント・ディグリープログラム（Joint Degree Program：JDP）とは、連携する大学間で開設された単一の共同教育プログラムを学生が修了した際に、当該連携する複数の大学が共同で単一の学位を授与するもの。

IITG教員が本学を訪問

12月21日～26日

令和4年12月21日から26日にかけて来学していた、インド工科大学グワハティ校（IITG）のゴード教授、ミトラ准教授、カナガラージ教授およびダス教授の4名が、本学学長および部局長を表敬しました。このたびの訪問も「大学の世界展開力強化事業」プログラムにより実現しました。本プログラムの目標は、本学が設置・運営する国際連携専攻（JDP）を基盤として形成する産官学金連携（JDPコンソーシアム）を活用し、JDP連携校であるIITGと共同して、修士号レベルの修了証（Certificate）発行型教育（分野は食品流通、減災・防災、サステナブル技術など）を構築し、グローカル高度人材を育成することです。

令和5年3月には、IITGにおいてJDPシンポジウムと国際修了証発行型教育に関するミーティングを予定しており、「大学の世界展開力強化事業」による本プログラムをさらに推進していきます。

協定大学の学生とのオンライン交流会

10月19日・21日

国際月間の一環として、令和4年10月19日および21日に「協定大学の学生とのオンライン交流会」を開催しました。相手大学は、ヴィータウタス・マグヌス大学（リトアニア）とリール大学（フランス）で、本学の教員がファシリテーターとなり計2回開催しました。リール大学との交流会は15名が、ヴィータウタス・マグヌス大学との交流会は19名が参加しました。最初に教員から相手国の説明などがあり、その後にグループに分かれ、日本語や英語で話しながら、学生生活や食文化など様々な話題で交流を楽しみました。本学参加者からは「少人数でお互いの話ができてよかった」、相手大学学生からは「とても盛り上がり、もっと話したかった」などの感想があり、両大学の参加者に良い刺激となったようです。

海外留学フェア2022秋

11月16日

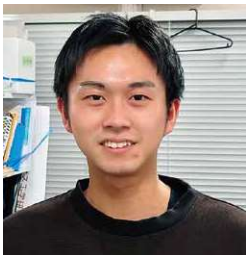
令和4年11月16日、グローカル推進機構主催「海外留学フェア2022秋 ～広げよう留学の輪～」を開催しました。本フェアは、プログラム毎に留学経験者が中心となって運営するブースを参加者が訪問し、学生同士が直接交流できるスタイルで実施しました。第1部では、グローカル推進機構 留学支援室から機構主催の留学プログラムや奨学金制度に関する説明があり、続いて、各留学プログラムの代表者による報告がありました。第2部では、参加者は、各ブースで留学経験者によるプログラム説明や体験談に熱心に耳を傾け、質問をしました。本フェアでの留学プログラム説明や学生間交流で築いたネットワークを通じて、留学が促進されることを期待します。

第21回 岐阜県内 外国人留学生日本語弁論大会

11月26日

令和4年11月26日、岐阜協立大学北方キャンパス（大垣市北方町5-50）において、本学が事務局を務める「岐阜地域留学生交流推進協議会」の取り組みのひとつとして、「第21回 岐阜県内 外国人留学生日本語弁論大会」が開催されました（幹事校：岐阜協立大学）。本大会は、平成13年度より岐阜県内の教育機関に在学する外国人留学生の日本語学習意欲の喚起および日本語の表現能力の向上を図ることを目的に行っています。当日は、本大会実行委員長の岐阜協立大学 竹内 治彦 学長及び岐阜地域留学生交流推進協議会長の本学学長による主催者挨拶の後、岐阜協立大学、朝日大学、中日本自動車短期大学、国際たくみアカデミー、中部学院大学、および本学の留学生9名（6か国）の本選出場者が約7分間の日本語のスピーチを行い、日頃の努力の成果を存分に発揮しました。本学からは、交換留学生の劉 思然（りゅう・しぜん）さんが「断捨離で生活を整理」と題してスピーチを行い、緊張した面持ちではありましたが、明瞭な日本語で断捨離の有用性を語りました。

海外で学ぶ



自然科学技術研究科
梅原 輝

GU-IITG
JDプログラム

インドへの留学で得たもの

私は研究活動が両立できる交換留学制度に魅力を感じ、インド工科大学グワハティ校（IITG）とのジョイント・ディグリー（JD）プログラムに参加しました。約5か月半の滞在期間のうち、最初はとても蒸し暑い思いをしましたが、それでも秋以降は快適に過ごすことができました。現地では、日本とは異なる文化や教育方法に数多く触れました。その中で、自身の意見や研究内容を英語でうまく伝えられない場面に何度も直面し、発信力や表現力のなさを痛感しました。しかし、インドの友人や先生方は皆、間違いを恐れて躊躇するよりも、積極的に挑戦する姿勢を尊重してくれました。そのため、間違いを繰り返しながら向上していく習慣が身についたと思います。他文化に浸りながら成長できる、とても有意義な時間を過ごすことができました。

全国大学JDP協議会が始動

令和4年10月25日、本学が会長大学を務める全国大学JDP協議会において、第1回総会をオンラインにて開催し、29大学1機関109名が出席しました。本協議会は令和4年4月に設置され、会員校12大学・オブザーバー校26大学（令和5年3月1日現在）が参加しており、JDPを開設、あるいは開設を予定している大学が、JDPの運用における課題の改善や情報共有、JDPの活用の方策ならびに今後の展望についての検討、JDPに関する意見・要望等のとりまとめ、および文部科学省への提言、新規JDP立ち上げ校に対するアドバイスを目的として組織されています。総会では、東海国立大学機構 松尾 清一 機構長および本協議会 植松 美彦 会長の挨拶の後、文部科学省高等教育局参事官（国際担当）付 武田 久仁子 専門官による「ジョイント・ディグリー101」と題し、JDPの制度概要、開設状況、改正概要等についての講演が行われました。続いて協議事項へ進み、JDP運用にあたっての問題点および文部科学省への要望事項、国際連携専攻に係る専任教員数、JDP修了生の進路状況調査について協議されました。その後、JDPを運用している大学のうち、名古屋大学、筑波大学、立命館大学、広島大学、山口大学および東京医科歯科大学から、各大学の取り組みについて発表がありました。

総会において協議された文部科学省への要望事項は、改めて「ジョイント・ディグリープログラムの運用に関する要望書」として、令和4年12月16日に植松会長が松尾機構長とともに文部科学省を訪問し、文部科学省高等教育局長に手交しました。

岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2022

11月30日・12月1日

令和4年11月30日および12月1日に、オンライン（Zoom）および一部対面にて、岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2022を開催しました。東海国立大学機構JDPシンポジウムでは、「共創の場としてのジョイント・ディグリー ～教育研究の国際化と地方創生～」をテーマに、東海国立大学機構長からの開会挨拶の後、渡辺 栄二 文部科学省高等教育局参事官（国際担当）による基調講演「ポストコロナ時代の国際的な学生・大学間交流について」、河合 真衣 経済産業省通商政策局南西アジア室総括補佐による講演「高度外国人材の活用について―JDと産業界での連結について」がありました。学術セッションでは、「持続可能な地域開発；SDGs（※）とその先に向けて」をテーマに、脱炭素社会に向けたバイオマス活用技術について、IITG、マレーシア国民大学（UKM）、京都大学および東京大学から発表がありました。産官学金連携セッションでは、第1セッションは「SDGs対応の紹介」、第2セッションは「インド事業と脱炭素」をテーマに、国内の産業界・金融関係者、行政関係者、大学関係者の間でパネルディスカッションを行い、グローカル活動の推進を目指して、SDGsおよびカーボンニュートラルからのアプローチを行いました。

※SDGs（Sustainable Development Goals、エスディージーズ）とは、平成27年9月25日に国連総会で採択された、持続可能な開発のための17の国際目標です。

都内の建設企業より防寒具を提供いただきました

9月30日

令和4年9月30日に、都内の建設企業から公益社団法人日本非常食推進機構および国立大学協会を通じ、防寒具約90着（Sサイズ～ 4Lサイズ）を提供いただきました。本学では、このコロナ禍において、約30か国から留学生を受け入れている状況であり、留学生支援の一環として、非常用備品として活用させていただきます。多くの留学生からも喜びの声が寄せられ、あたたかいご厚意に感謝しておりました。

岐阜大学で学ぶ

教育学研究科
ナブルナゲ カラニ
ニメージャ ランガニ

スリランカ

まるで自分の家のような素敵なところ

私が研究生として、憧れの岐阜大学教育学部に入学したのは、文部科学省の奨学金を獲得した平成29年のことでした。そして今ふたたび、私はロータリー奨学金受給生であることを誇りに思います。私は岐阜大学大学院で音楽を専攻する修士課程2年生です。本学から受けた教育環境と愛情と慈しみとは、私の人生で比類のないものであると、ためらいなく言えます。しかも、音楽教育ご担当の松永 洋介 教授は、この留学全体を通して常に私の心の支えでいらっしゃることを、謹んでお伝えします。さらに、私の夢を叶えるための最初の一歩を踏み出す力を授けてくださった日本のロータリーの皆様のお導きには、とても感謝しています。さまざまな知識や技術を身につけた私は、日本の音楽教育システムを母国スリランカに広めようと決心しました。今や岐阜大学こそが、私のメンターにほかなりません。

[世界展開力]ウィンタースクール 2022

12月12日～26日

グローカル推進機構では、COVID-19の影響を受けて中断していた短期受入プログラムのウィンタースクール(※)を3年ぶりに開催しました。6回目となる今回は、令和4年12月12日から26日にかけて、本学とJDPを設置しているIITGから6名、UKMから2名の学生が来学しました。本年度は「土を通してみる岐阜」というテーマを設定し、岐阜や日本の焼き物産業にスポットを当て、科学的な視点で焼き物の産地の違いを分析しながら、多治見市で実際に作陶を体験して伝統文化としての焼き物を学びつつ、企業見学を通して現在の産業としての「焼き物」を考えました。2週間という短い期間でしたが、参加学生らは日本語・日本文化体験のほか、企業理解、地域理解の特別講義を受け、最終日の12月26日には、本プログラムをとおして学んだことを発表する最終報告会を開催しました。

※本事業は、大学の世界展開力強化事業の支援を受けて実施しました。

上海外国語大学賢達学院において岐阜大学留学説明会を開催

11月29日

令和4年11月29日に、本学上海事務所職員による岐阜大学留学説明会を上海外国語大学賢達学院において行いました。留学説明会は対面およびオンラインで実施し、日本語学科の学生約150名（対面50名、オンライン100名）の参加がありました。参加学生からは、本学が東海国立大学機構に参画していることから、特に名古屋大学との関係について質問がありました。今後さらに本学への関心が高まり、留学が促進されることを期待します。

「Glocal Lesson」ウェブサイトをリニューアル

グローカル推進機構が令和4年4月から配信を開始した「Glocal Lesson」では、配信・対面・リアルタイムで様々なジャンルの講座を学ぶことができます。

URL：https://www.gu-glocal.com

9月には、サイトデザインやページ構成を一新しました。動画のジャンルが分かりやすく、SNSでの共有などの機能も追加し、より快適に、より楽しく利用できるようになっています。「おすすめ講座」では、各ジャンルで人気の講座などをピックアップ。Glocal Lessonで新しい分野にチャレンジしてみてください。

無料会員登録はこちら

IITGを主大学とするJDP学生が本学での留学を修了

10月18日

令和4年10月18日、岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 国際連携食品科学技術専攻（修士課程）学生（IITGを主大学とする学生）5名は、本学での留学を無事修了し、翌19日に帰国しました。本専攻は、令和元年度にIITGおよびUKMと共同で開設した4つの国際連携専攻（JDP）のひとつです。3期生となる5名は、令和4年6月14日に本学へ到着し留学生活を開始、約4か月間を本学で学びました。その間、講義履修と本学の共同指導教員の研究室での研究活動、そして日本企業へのインターンシップを行いました。10月17日に開催された送別会には、本学からIITGに留学中の本専攻学生（2ページ下欄を参照、オンライン参加）、さらには来年度に入学希望の本学学生とともに、専攻構築に関わってきた小山 博之 教授（応用生物科学部）およびインド学生にインターンシップ企業を紹介した本学グローカル推進機構 三輪 真一 特任教授も参加し、和やかな懇談の場となりました。小山教授からは日印の架け橋となるグローカル人材になってほしいとの期待の言葉が寄せられました。三輪教授は各自のインターンシップ経験を他の参加者と共有する場面を設け、インド学生と入学希望の本学学生に有益な機会となりました。送別会の終了後には、日印学生が連絡先を交換する場面が自然に生まれました。インド学生の本学留学に対し、独立行政法人日本学生支援機構より2022年度 海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）双方向協定型の支援を受けました。本専攻のIITGを主大学とする5名の学生は、令和5年6月に国際共同学位を取得する予定です。

岐阜大学
グローカル推進機構
編集・発行：岐阜大学グローカル推進機構　E-mail：kokusaik@gifu-u.ac.jp
事　務　局：岐阜大学学務部国際事業課国際総務室（国際交流に関すること）
TEL:058-293-3351 E-mail：int_exch@gifu-u.ac.jp
岐阜大学学務部国際事業課留学支援室（留学に関すること）
TEL:058-293-2137 E-mail：direcent@gifu-u.ac.jp

岐阜大学
岐阜大学国際交流 NEWS Letter
https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/planning/data/newsletter/index.html

GU-GLOCAL Channel
https://www.youtube.com/channel/UCMJkzg04fsxzo3ogeNHC-PA